

## 地域猫の去勢術後のお腹の膿がMercで止まったケース

岡野桃絵  
日本ホメオパシーセンター福岡博多南  
RAH12期卒

庭に遊びにくる猫を地域でも可愛がってもらえるため数を増やさないように去勢手術をした1匹のメスの術後の治りが遅く化膿し、Mercで回復したケースの紹介です。

地域猫を病院に連れて行き薬を使えば、保険の効かない動物は大枚を使い、手間や時間も使います。セルフケアでホメオパシーを使い、傷口がキレイになり安心しました。

### 2023.3.9術後

しばらく病院に入院しての手術だったため、恐怖心に対して、ショックにAcon30cを猫の歯の横から直接入れた



2023.3.17 ひどくはなっていなかったようだったが、傷口が塞がっていないように見えるため、Calen のレメディをあげた。



2023.4.16  
傷口が膿だした様子

炎症が起こり汁が出ている事からHep-s+silicaをあげた。変化なし。



数日後、黄緑色の臭いのある膿が変わってきた。腫れや炎症も引き続きある。

これまでのレメディでは合っていないようだったのでMercをあげる。また、この症状が術後からの悪化の為、Mercは合うレメディはないかと思った。

次の日から膿の量が激減。

2日後には膿が止まっていた。

腫れも引き、みるみるよくなっていった。

術後しばらくは、警戒しているようでもあり、傷のためか元気もない様子だったが、傷口も塞がり、元気に走りまわっている。

去勢手術自体に賛否両論あるかと思いますが、猫は非常に繁殖力の強い動物なので、共存という意味でも手術をお願いしました。

手術をした事で、悪化させるわけにもいかず、地域猫にどこまで手をかけるかも課題でした。病院に連れて行き薬を使えば、保険の効かない動物は大枚を使います。動物病院とも連絡を取り、手に負えないと思った時は、病院をお願いするという形で、傷口がキレイに落ち着き安心しました。

2023年7月の様子



現在は3匹で仲良くすごしています。

